

予報期間 1月15日から1月21日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 17日は、低気圧が北日本付近を通過して冬型の気圧配置となる。
- 18日は、冬型の気圧配置が次第に緩む。
- 19日は、低気圧が日本海へ進む。
- 20日は、低気圧が日本の東へ進み、冬型の気圧配置となる。
- 21日は、日本付近は冬型の気圧配置が強まる。

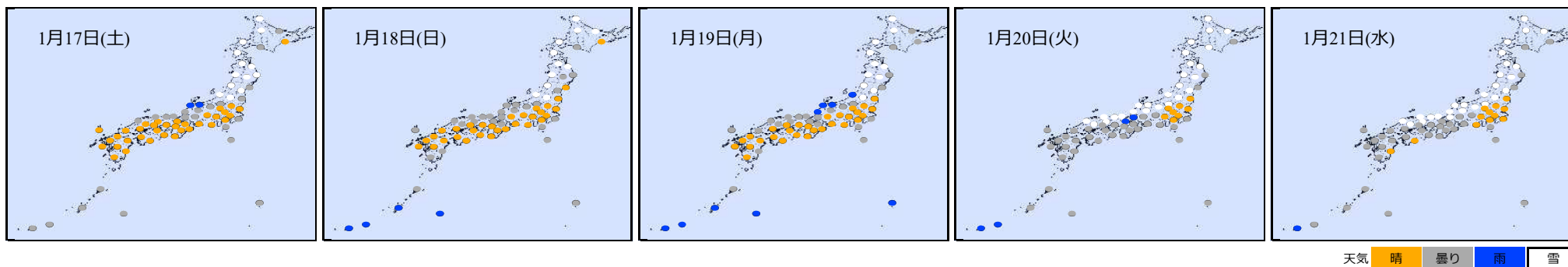
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

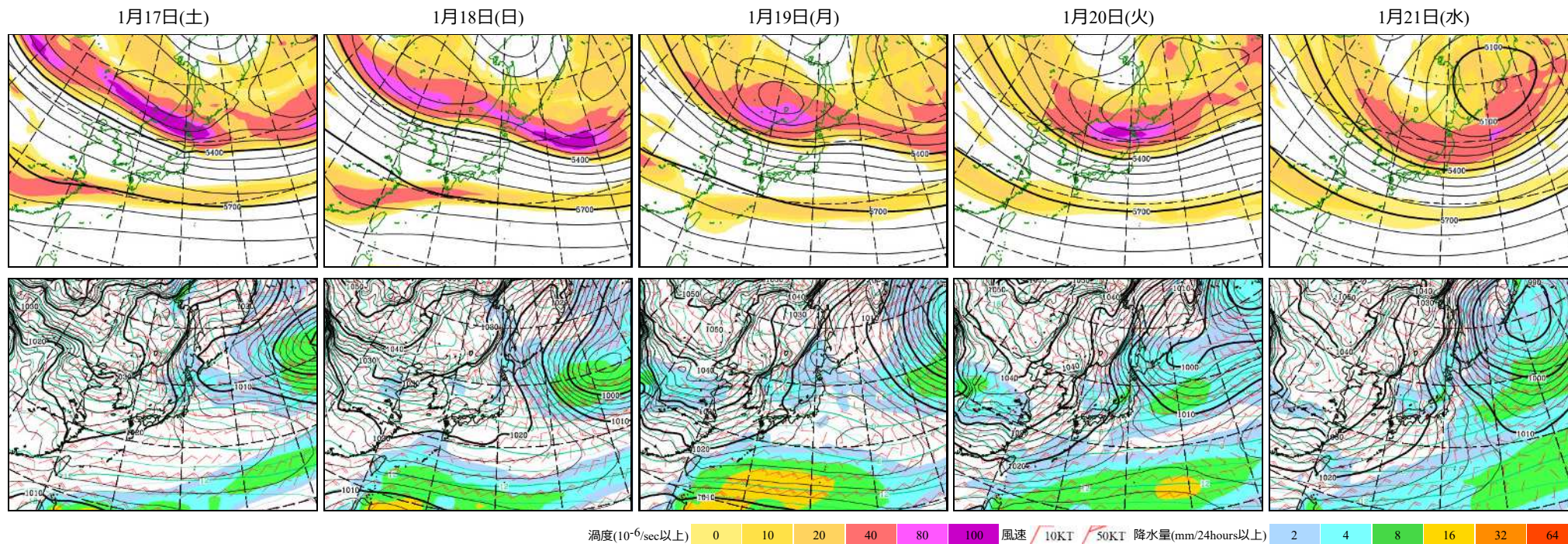
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

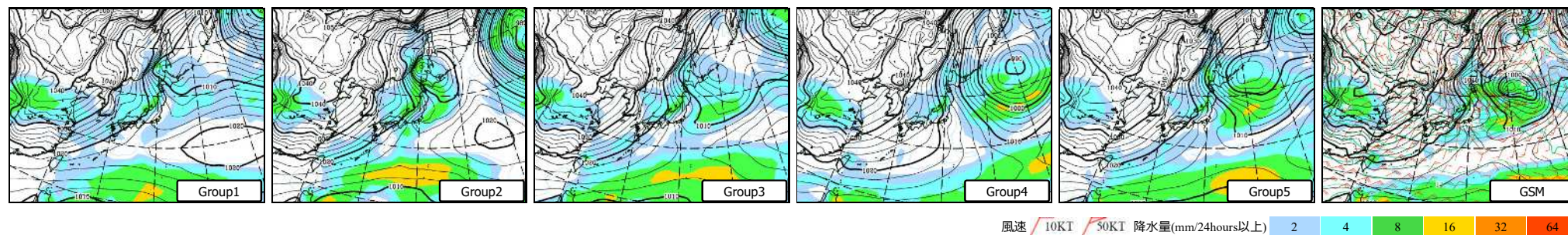


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月20日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、17日は北日本付近のトラフが浅くなり、日本の東へ進む低気圧がやや不明瞭となった。総観場の初期値変わりは比較的小さく、降水確率ガイダンスの初期値変わりも小さい。
- 各モデルとも、寒冷渦が19日に中国東北区へ進み、20日は北海道付近を通過して、21日はオホーツク海付近へ進む予想で、21日は日本付近のトラフが深まる予想はおおむね揃っている。
- スプレッドは比較的小さく、期間の終わりは昨日資料よりばらつきが小さくなった。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。